○日本における *Camellia granthamiana* の開花（富樫　誠）Makoto TOGASHI: *Camellia granthamiana* produced flowers in Japan

1958 年 4 月お茶の水女子大学の津山尚博士は東南アジア旅行の帰路香港に立ち寄り，ツバキ属の 4 種，*C. granthamiana*, *C. hongkongensis*, *C. assimilis* および *C. salicifolia* の枝，芽生えなどを採集し，その増殖を小生に托された。後の 2 種はそれぞれ高さ 1—2 m に生育し，小形白色の花を京都で開花しはじめた。しかし園芸的に興味のある前の 2 種は活着しなかった。この中，*C. granthamiana* は花も大形で美しく，特に面白いものであって，1955 年九竜半島の Shing-Mun（大帽山）で 10月の開花時にただ一株が発見されたのみ，その後新しい株はどこからも発見されていない稀有の種である。この標本は香港政府の H.C. Tang 氏によって Kew の J.R. Sealy 氏に送致され，新種として Journ. Roy. Hort. Soc. **81**: 182 (1956) に発表された。葉は茶の葉に似てすこぶる大形かつ厚質，花はサザンカ型で平開し，白色大輪，直径 10 cm 以上，蕚，苞は永存性，樹高 3—4 m である。このただ 1 個の自生株は世界的の記念樹ともいうべきものであって，現在香港政府の保護の下にある。

図 1. 京都で咲いた *Camellia granthamiana*. × ca. 1/2. (Nov. 2, 1964).

小生は何とかしてこの種を日本で育成したいと思い，津山博士を通じて Tang 氏に連絡して香港に立ち寄り，同氏の好意ある案内によって 1962 年 3 月，現地で挿穂を得ることができた。自生地は標高約 700 m，小さい渓流に沿った岩石の多い斜面である。帰国して挿木接したところが，見事に活着し，1964—5 年の 10 月下旬—12 月上旬の間につぎつぎと開花した。

母株の株は発見以後 Tang 氏の手を経て欧米に送られ，既にそこで開花の報告もあるが，日本で育生開花させた事実をここに報告したい。おわりに，Tang，津山の両氏および直接にこの種の育生に当られた渡辺喜太郎氏の労に対して感謝の意を表します。

（武田研究所）